

307 暗算

30701

◇第1時の授業

p80

- (1) ・ 80ページを開いたら、教科書を持って立ちます。
・ 追い読みをします(値段まで)。 ※追い読み→1人読み
- (2) ・ はるとさんが言っています「するめとチョコレートを買うと代金は」
・ するめは何円ですか(56円)。チョコレートは何円ですか(38円)。
・ 2つとも買うので、たし算です。式は何ですか(56+38)。
・ Aさん、□1を読んで下さい(読む)。
・ 「暗算」とは何ですか(筆算しないで計算すること)。
・ お店で品物を買うとき、筆算している人はいませんね。
今日は、筆算をしないで、答えを出す勉強に挑戦します。
- (3) ・ ?マーク「暗算のしかたを工夫しよう」とあります。
・ 方法は1つだけではありません。
・ 下に、こうたさんの考えとあみさんの考えがあります。
- (4) ・ まず、こうたさんの吹き出しを見ます。
・ 「56」を、何と何に分けていますか(50と6)。38は(30と8)。
・ 十の位と一の位に分けているということですね。
・ $50+30=80$ とあります。これは、何の位をたしていますか(十の位)。
・ $6+8=14$ 。これは、何の位をたしていますか(一の位)。
・ 「だから…」とあります。80と14を何するのですか(たす)。
・ 「80+14」にするのですね。…の後に「80+14」を書きます。
・ 答えはいくつですか(94)。吹き出しの脇に書きます。
・ これは、たし算の筆算のやり方と同じですね。
でも、筆算は一の位から計算しました。
暗算は大きい方から計算しています。
- (5) ・ 説明練習をします。
「56を50と6に分けます」(同)「38を30と8に分けます」(同)「50+30は80」
(同)「6+8は14」(同)「だから80+14は94」(同)「答えは94です」(同)。
※全員読み→1人読み
- (6) ・ 次は、あみさんの吹き出しを見ます。
・ あみさんは、文だけで説明しているので、式を使った図にします。
・ 脇に、「56+38=□」と書きます(書く)。
・ 「38」は、あと少しで「40」です。あといくつで「40」ですか(2)。
・ この「2」を「56」の中から取ります。
・ なので、「56のさくらんぼ」を書きます(56を、54と2にわける)。
※板書の通りに写す
・ そして、「38と2」を「バナナ囲み」して「40」と書きます。
・ 「54」と「40」を丸囲みしてたします。いくつですか(94)。□に書く。
★2つの数のうち、どちらかを「何十」にすれば、わかりやすいですね。
- (7) ・ さくらんぼ図を見ながら、説明練習をします。
「38はあと2で40」(同)「56を54と2に分けます」(同)「38と2を囲んで40」
(同)「54と40で94」(同)「答えは94です」(同)。
※全員読み→1人読み
・ Bさん、みさきさんのまとめ吹き出しを読んで下さい(読む)。
- (8) ・ Cさん、①を読んで下さい(読む)。
・ 品物2こを選びます。どれでもいいということではありません。
・ 持っているお金はいくらですか(100円)。

- (9) ・例えば、62円のドーナツがほしいとします。ドーナツに丸囲み。
 ・もう1つの品物は何が買えるかを考えます。
 ・ラムネは買えますか(買えない)。 ※62+□を筆算形で板書
 ・なぜすぐにわかるのですか(ラムネは十の位が6なので、もう100円を
 超すことがわかるから)。 ※十の位が6+6を示す
 ・十の位が4以上なら100円を超すのでダメですね。
 ・ということは、ラムネは×、イチゴチョコは(×)。ジュースは(×)。
 するめは(×)。チョコレートは(○)。あめは(○)。ガムは(○)。
 えびせんべいは(×)。あられは(×)。
 ・ドーナツと一緒に買える品物は、チョコレート、あめ、ガムでした。
- (10) ・ノートを出します。次のように書きます。
 ・「62+38=□、62+8=□、62+27=□」。
 ・こうたさんとあみさんのどちらかの図を使って計算します。
 ・できたら先生チェック。 ※習熟システム
 ・合格した人は、p81△1の①②③④をやります。 ※習熟システム

★ポイント(30701)

(1) たし算暗算の説明をする。

○たされる数もたす数も、「何十と何」のさくらんぼで分ける。

— 《おしゃべり》 —

- (1) 56を、50と6に分けます。
- (2) 38を、30と8に分けます。
- (3) $50+30=80$ 。
- (4) $6+8=14$ 。
- (5) 80と14で、答えは94です。

○たされる数とたす数のどちらかを「何十」にする。

そのために、さくらんぼで分ける。

— 《おしゃべり》 —

- (1) 38は、あと2で40。
- (2) 56を、54と2に分けます。
- (3) 38と2を囲んで40。
- (4) 54と40で、答えは94です。

- (1)・81ページを開いたら、教科書を持って立ちます。
- (2)・追い読みをします(□2)。 ※追い読み→1人読み
- (3)・今日は、たし算ではなく、ひき算の暗算です。
 ・?マーク「暗算のしかたを工夫しよう」とあります。
 ・方法は1つだけではありません。
 ・下に、3人の考えが書いてあります。
- (4)・まず、りくさんの吹き出しを見ます。
 ・「62」を何と何に分けていますか(50と12)。48は(40と8)。
 ・昨日は、十の位と一の位に分けました。48はいいですが62は違います。
 ・なぜかを調べます。 ※「62」を60と2のさくらんぼにする
 ・同じ位どうしをひきます。60-20は(40)。2-8は(ひけない)。
 ・「2-8」は引けなくなります。なので、「62」を「60と2」に分けるのではなく、「50と12」に分けたですね。
 ・50-40は10。12-8は4。
 ・「だから…」とあります。残った10と4を何するのですか(あわせる)。
 ・「10+4」にするのですね。…の後に「10+4」と書きます。
 ・答えはいくつですか(14)。吹き出しの脇に書きます。
- (5)・説明練習をします。
 「62を50と12に分けます」(同)「48を40と8に分けます」(同)
 「50-40は10」(同)「12-8は4」(同)「だから10+4は14」(同)
 「答えは14です」(同)。 ※全員読み→1人読み
 ・これも筆算と似てましたね。
- (6)・次は、みさきさんの吹き出しを見ます。
 ・脇に、「62-48=□」と書きます(書く)。
 ・「48」は、あと少しで何十になりますか(50)。
 ・「62」の中から「50」を取ります。なので「62のさくらんぼ」を書きます。
 (62を12と50に分けるさくらんぼ)。 ※板書の通りにノート写し
 ・50から48をひくと2。(チョン、2)。
 ・12と2を丸囲みしてたします。これが答えです(14)。
- (7)・説明練習をします。
 「48はあと2で50」(同)「62を12と50に分けます」(同)
 「50から48をひいて2」(同)「12と2で14」(同)「答えは14です」(同)。
 ※全員読み→1人読み
- (8)・しほさんの考えは少し難しいです。
 ・「62-42」ならすぐにできると書いてあります。いくつですか(20)。
 ・なので、「48のさくらんぼ」をします。
 ・「42と6」に分けます。「62」を2回に分けて引きます。
 ・「62-42」は(20)。「20-6」は(14)。 ※「減減法」の書き方を板書
- (9)・Aさん、はるとさんのまとめ吹き出しを読んで下さい(読む)。
 ・Bさん、①を読んで下さい(読む)。
 ・例えば、「えびせんべい79円」を買ったとします。
 ・式は「100-79=□」です。脇に書きます。
 ・100円玉1枚ではなく、両替して10円玉10枚にします。 ※黒板に絵
 ・レジで「79円です」と言われたら10円玉何枚出しますか(8枚)。
 ・なので、「100」を「20と80」に分けます(さくらんぼで20と80)。
 ・80円を出すと、おつりは1円ですね。「80」をチョンして「1」。
 ・「20」と「1」に丸囲み。答えは何円ですか(21円)。

- ・写します。書けたら先生チェック。
- (10) ・合格した人は、△1の⑤～⑫をやります。
 - ・りくさんとみさきさんのどちらの方法を使ってもいいです。
 - ・難しいと思ったら筆算をしてもいいです。
- (11) ・スキル32番を開きます。

※習熟システム
※スキルシステム

★ポイント(30702)

- (1) ひき算暗算の説明をする。
- ひかれる数もひく数も、「何十と何」のさくらんぼで分ける。
 - ただし、一の位がひけるように分ける。

— 《おしゃべり》 —

- (1) 62を、50と12に分けます。
- (2) 48を、40と8に分けます。
- (3) $50 - 40 = 10$ 。
- (4) $12 - 8 = 4$ 。
- (5) 10と4で、答えは14です。

○ひく数を引くことができる「何十」を、ひかれる数からさくらんぼ。

— 《おしゃべり》 —

- (1) 48は、あと2で50。
- (2) 62を、12と50に分けます。
- (3) 50から48をひいて2。
- (4) 12と2で、答えは14です。

○ひかれる数が「何十」になるように、ひく数を分ける。

減減法のやり方で解く。

— 《おしゃべり》 —

- (1) 48を、42と6に分けます。
- (2) 62から42をひいて20。
- (3) 20から6をひいて14です。